

ニュース・リリース **疑惑の年輪年代法・情報公開へ訴訟**

～古代史解明をする上で決め手となる年輪年代法の
疑惑を解消するために情報公開を請求～

日本古代史ネットワーク(代表者:会長 丸地三郎)は、独立行政法人国立文化財機構:奈良文化財研究所から発表されてきた「年輪年代法」に関する情報公開を請求しておりましたが、公開を拒絶されたため、独立行政法人国立文化財機構に対して、情報公開を求める訴訟をに東京地方裁判所に、本日、提訴致しました。

【古代史と年輪年代法について】

古代の歴史を探究する時に、年代を明確に決定する方法が望まれていました。土器の様式の変化などから土器編年を行い、年代推定するなどの方法を採ってきましたが、相対的で、絶対的年代の特定には至りませんでした。その中、1985年、奈良文化財研究所の光谷拓実氏が年輪年代法を実用化し、木材の年輪幅を正確に測定し、科学的に処理することにより、一年単位の年代特定が可能となりました。それは古代史にとって、将に、画期的な出来事でした。

【真偽が問われる事態】

処が、測定した年代の真偽が問われる事態が発生しましたが、しかし、真偽の検証には至りませんでした。実は年輪年代法に関しては、①年輪年代法で年代測定できる人が開発者とその部門の数人に限られていた上に、②確立されたとする「ものさし」となる基礎データ等が、一切、公開されていません。従って、第三者による客観的な検証がおこなわれない困った状態が続きました。

【歴史学者の年代観へ影響】

年輪年代法によって古墳時代が100年遡ることになりましたが、歴史学者の中には、年輪年代法の結果を採用しない人もいますが、多くの歴史学者が疑念を持ちながら、影響を受けたり、採用したりする状態になりました。それが、2021年現在も続いています。正否に拘らず、古代史に大きな影響を与えている状況と云えます。

【真偽の検証の一つの方法】

年輪年代法の測定結果を検証する「一つの方法」がありました。それは、「文献史料と比較検討することができる年代について検証すること」。その検証の結果、例えば、法隆寺の心柱は594年伐採とされたが、日本書紀には、670年火災で全焼、その後、再建されたと記されています。100年程の矛盾が生じました。その外、次々と矛盾が指摘さ、この重大な指摘に対して、年代測定を行ってきた奈良文化財研究所の光谷拓実氏は、基礎データを開示せず、様々な反論を行いました。どれも納得の行かないものでした。

【解決策】

この問題を解決するには、未公開の基礎データを公開し、第三者がそれを検証することが、最も有効な方法と云えます。これは当初から、歴史学者が指摘してきた方法です。

基礎データの公開は、研究者個人の問題ではなく、研究者の所属する研究機関である「独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所」の問題です。基礎データを責任をもって公開する立場にあると考えます。



【情報公開請求と公開を求める訴訟】

古代史ネットワークは、古代史の解明を願う古代史同好者の全国的団体です。古代史探究者にとって、長いこと期待され、逆にネックとなってきた年輪年代法の問題を解消をすべく、情報公開の請求を行いました。残念ながら拒絶されたため、訴訟することになりました。

【訴訟の目的】

訴訟の結果、幸いにも情報公開がされた場合には、古代史ネットワークの会員だけでなく、多くの古代史探究者と情報を共有して、年輪年代法の問題を調査・検証を行うことを予定しております。誤ったものならばそれを糺し、正しいものならば、安心して、古代史探究に活用して行きたいと願っております。

以上

『日本古代史ネットワーク』について

名 称： 日本古代史ネットワーク

所在地： 〒104-0061 東京都中央区銀座 1-22-11 銀座大竹ビジデンス 2F

会 長： 丸地三郎(まるち さぶろう) 副会長：河村 哲夫(かわむら てつお)

設 立： 2020年10月1日

URL : <https://nihonkodaishi.net/index.html>

参加者： 会員数 131 名、

目的・内容： 日本古代史の解明を目的とします。 行う内容は：

- ① 古代史研究と解明
- ② 講演会等の開催
- ③ 全国の古代史関係の個人・団体等との交流・親睦事業の実施

『この件に関するお問い合わせ先』

原告訴訟代理人弁護士 井上 侑(いのうえ たすく)

日本古代史ネットワーク 会長： 丸地三郎(まるち さぶろう)

【添付資料】

- ① 公開請求書
- ② 不開示通知書
- ③ 訴状

『追加情報』

年輪年代法の問題は、沢山ある年代測定法の中の「一つの問題」ではありません。そこが、重要な処です。今、最も信頼され活用が進んでいるものに、「炭素14年代測定法」があります。この方法は放射性元素の半減期間を利用する先進科学の方法ですが、理論値だけでは正確に測定できないために、現実に測定されたデータを使って、補正(較正)を行う必要があります。国際的な合意に基づき IntCal と呼ばれる較正曲線が作られ公開されています。この較正曲線の作成には、「年代の判っている物」を測定し、その年代と測定データを、多数集めることが行われています。「年代の判っている物」の年代測定には、実は、年輪年代法が採用されています。ここが問題です。

同様のことが、近年、歴史の解明に使われ始めた酸素同位体比年輪年代法にも言えます。

ご参考： IntCal に関しては、水月湖の年縞博物館のホームページに、判り易い文章と動画(4分41秒)があります。

(<http://varve-museum.pref.fukui.lg.jp/research/result01/03>)